

縄文人の生活に思いを馳せる

田小屋野貝塚「人骨展」



会場に詰めかけた来場者



人骨の解説をする奈良教授

縄文住居展示資料館「カルコ」で10月21日、「田小屋野貝塚人骨展」が始まりました。「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成史跡である田小屋野貝塚では、平成24年8月に約5500～5千年前（縄文時代前期）の成人女性と推定される人骨が出土。縄文人の暮らしを解明する貴重な資料として、新潟医療福祉大学で保管され研究が進められてきました。人骨展では、その人骨をはじめて一般公開しています。

初日のオープニングセレモニーでは、福島市長が「皆さまに縄文文化の価値を広く知ってもらい、世界遺産登録への弾みとなれば幸いです」とあいさつ。22日松の館では、人骨の発掘・調査に協力した新潟医療福祉大学医療技術学部の奈良貴史教授が「よみがえる縄文時代人」と題して、最新の研究成果をもとに縄文人の生活などを紹介しました。

人骨展は11月26日まで開催。同大学と青森県立郷土館の協力により、国内で出土した人骨や石器・装飾品なども比較資料として展示しています。奈良教授は「実際に出土した骨を見ながら、当時の生活への理解を深めていただきたい」と話していました。

地域に根差した伝統芸能の競演

つがる市伝統芸能保存フェスタ



出野里獅子踊保存会



木造甚句保存会



ト傳流剣術保存会。左が13代目の小山隆秀氏

市内で継承されている伝統芸能が一堂に会する「第13回つがる市伝統芸能保存フェスタ」が10月4日、松の館で開催され、約200人の市民らが多様な民俗芸能の奥深さを堪能しました。これは、伝統文化の振興を目的に市伝統芸能保存協会（花田了会長）が主催したものです。

フェスタは、つがる市登山獅子保存会による登山獅子でスタート。続いて三方荒神鹿島獅子保存会、ホーハイ節保存会、弥三郎節保存会、木造甚句保存会、出野里獅子踊保存会が、それぞれの地域に根差した伝統芸能を発表し観衆を魅了しました。また、今年は弘前市指定無形文化財の「ト傳流剣術保存会」が特別出演。真剣を使った剣術の稽古や模擬刀での居合いなどを披露し、来場者は息を飲むように見入っていました。

快晴の下、700人が快走見せる

つがる地球村一周マラソン大会



一斉にスタートを切るファミリー1.5kmコースの参加者



福岡さん親子の選手宣誓



沿道から声援を送る観衆



家族でゴールを目指します



力走を見せる選手ら

大会結果

順位	氏名	住所	タイム
10 km	1 原 和也	青森市	34分29秒
	2 水口 雄貴	青森市	36分09秒
	3 高木 更宗	弘前市	36分12秒
5 Km	1 五十嵐斐郷	青森市	16分50秒
	2 斉藤 大祐	弘前市	17分23秒
	3 一戸 雅之	つがる市	17分30秒
3 Km	1 島 航平	青森市	9分54秒
	2 西岡 正剛	つがる市	10分20秒
	3 乗田 美音	弘前市	10分23秒

9月24日、つがる地球村で「第13回つがる地球村一周マラソン大会」が開催され、県内外から参加した約700人のランナーが健脚を競いました。

汗ばむ陽気となったこの日、参加者は10km、5km、3km、ファミリー1・5kmの部に分かれてスタート。時折吹く心地よい風を受けながら、自然に囲まれたコースで力走を見せていました。

5kmを走り終えた板柳町の高杉昭吾さん(73歳)は、二人の孫とファミリー1・5kmにも参加。「孫を引っ張りながら楽しんで走れた。来年は上の孫が小学4年生。今度は引っ張られる立場かも」と笑顔を見せていました。競技終了後、選手たちは、豚汁の振る舞いとつがる地球村の温泉で疲れを癒したほか、お楽しみ抽選会で盛り上がっていました。

「十三湖産大和しじみ」

車力漁協がG-登録

車力漁協(尾野明彦組合長)が出荷する「十三湖産大和しじみ」が9月15日、農林水産省の「地理的表示保護制度(G-)」の特定農林水産物に登録されました。この制度は、生産地の特性(伝統的な生産方法や気候、風土、土壌など)が高い品質に結びついている産品の名称を知的財産として登録する制度。基準を満たすものだけが名称を使用することができ、不正は国が取り締まります。全国には「夕張メロン」や「神戸ビーフ」など43の登録産品があり、県内では3団体目、十三湖産大和しじみでは2団体目の登録。味はもちろんのこと、操業期間や収穫量の制限、漁場の清掃など徹底した管理体制も認められました。



9月27日、尾野組合長(左)と佐々木利隆業務係長(右)が福島市長を表敬訪問。尾野組合長は「つがる市初の登録で宣伝効果にもつながる。広く浸透してみんなに食べてもらえれば」と登録の効果に期待していました。